# 君へ。

夕凪

# 線香花火

恋は
線香花火のように儚く
一瞬のきらめきで
全てが終わってしまう

ゆらゆら
ゆらめいて
きらきら
きらめいて
消えてしまう

恋とは
儚いものだ

# 忽忘草

勿忘草のように
『貴方を忘れません』と誓ってから
何度目の春がきただろう
あなたは
私のことなんて
忘れてしまっているでしょうね
私は
まだ貴方が好き、なのに。
莫迦な私
さっさと忘れてしまえば
楽になれるのにね

# 空

いつもより空が蒼かった
そんな昼下がり
私はいつもより機嫌がよく
いつもより蒼い空を見ていた
照りつける太陽と
蒼い空と
いつもより明るい私

# よろこび

貴方と一緒にいられる
よろこび
それをいつまでも
大切にしていきたい
当たり前のようで
とっても大切なことだから
今日も
貴方と一緒にいられる喜びを
かみしめる

# 例えば

例えば僕がいなくなったとして　君に何か残せるだろうか

愛とか　思い出とか　記憶とか　僕がいなくなったとしても

君にはずっと　僕のことを覚えておいておいてほしい

僕という存在がいたことを

僕がただ一人愛した

君だけに　ただ　ただ　望むこと

# 真実と虚実

嘘や虚実で固められた世界は嫌い。
誰もがぽかぽか暖かくなれる世界
それが一番いいよね
嘘や虚実よりも
真実で人と関わり合いたいと
そう　思うのです

心の底から人と関わりあいたい
綺麗なものを綺麗だねと笑いたい

嘘や偽りだらけの世界なんていらない
今ここにある真実だけがあればいい

# あなた色

あなたに出逢えて
このモノクロの世界に
色がついた

あなたが着けてくれたこの色に
なんて名前をつけようか

あなた色に染まった私は
あなたに融けて行くの

ありがとう

愛してるよ

# 祈り

今日も私の大切な人が幸せでありますよう
そっと祈りを捧げる
届くかどうかなんてわからないけれど
大切なあなたに捧げる
私のささやかな願い
できれば
あなたに届いてほしいけれど

想いを伝えたくても伝えられない
私の臆病さ

# 永遠

永遠にあなたとこうしていられたらいいのに
小指と小指で愛を契る
私はそれが本当に幸せで
永遠にこの時間が続けばいいのに
そんな気持ちだった

神様
今だけは
永遠を
信じても
いいですか？

# やわらかい月

やわらかい月の下で
今日も貴方を待つ
缶コーヒーと白い息
私はその時間がとても幸せで

あなたと過ごす公園デート
時間が経つのが惜しかった
さよならする時間が寂しかった

今もやわらかい月の下で
あなたが来るのを待っています

# 言えないキモチ

あなたに言えない気持ちがあります
「好き」という気持ちがどうしても言えません
目であなたを追うだけで精一杯なのです
あなたを見ているだけで十分な私と
あなたの隣に居たい私で葛藤しています

ホントは
あなたの『トクベツ』になりたい
でも
あなたに
想いを伝えられない臆病な私

## Waiting for you

私は貴方をずっと待っています
約束の時間を数時間過ぎても現れない貴方
裏切られたなんて思わない
騙されたなんて思わない
ただ ただ
貴方を待ち続けます

貴方が
待ち合わせ場所に現れる
その時まで
私はずっと
貴方のことを
待ち続けます

# キミに逢いたい

突然私の前から姿を消したキミ
私はもう一度キミに逢いたいよ
キミと話したいよ

キミにもう一度逢えたら
話したいこといっぱいあるんだ
行きたい場所いっぱいあるんだ

だから
もう一度でいいから
キミに逢いたいよ

# 恋のゆくえ

恋の行方なんて誰にもわからない
わかるのは私が貴方を愛してるということ
貴方が誰を愛しているかはわからないけれど
私を見ていないのはわかってる
貴方は他の誰かを見ている
それに私は嫉妬している
なんて醜い私
ホントは私の方を見て欲しい
なんてね
欲張りな願望
私の方を見て欲しい
そんな恋の行方

# ふたり

ふたりで笑い合い
ふたりで喧嘩をし
ふたりでいつも一緒にいる
当たり前だけど
とても
当たり前なようで
とても
幸せな生活
この幸せを
大切に大切に
守っていきたい

# 恋をした

このなんとも言えないドキドキした気持ち
貴方を見つめる度に高鳴る心
貴方に毎日逢いたいと思ってしまうこの気持ち

そうだ

私は

あなたに

恋をしてしまったんだ

この感情を『恋』というんだ

# 君の声

君の声を聞く度に
私の心臓は高鳴る

君の声を聞く度に
私は嬉しくなる

できれば
ずっと君の声を聞いていたい

できれば
貴方の傍で聞ければいいのだけれど

想いを伝えることのできない
私の臆病さ

# 出せない手紙

貴方に出せない手紙があります
想いをしたためた手紙が積もるばかりで
出せない手紙ばかりがたまっていきます
貴方に渡したら
貴方との関係が壊れてしまいそうで
私はそれが怖くて
出せない手紙がたまったまま
私の部屋を埋め尽くしていきます

少しでも
貴方にこの想いをしたためた手紙の一部でも
想いが届くといいのだけれど

# 君のいる風景

あなたのいる風景は
私の心をカラフルに彩っていく
あなたに逢えた日は
何よりも嬉しくて
その日は何よりも幸せで

あなたのいる風景は
私をいとも飛び上がるほど幸せにさせる
あなたは気づいていないでしょうね

いいえ
気づかなくてもいいの
あなたのいる風景
それだけで
幸せだから

# 瞳の行方

この瞳を何処に向ければいいのでしょう
あなたに釘付けなのに
あなたはまるで気づいてくれない
気づいてほしいというのは我儘でしょうか

あなたに私のこの瞳は釘付けなのです
いつか
あなたに
この想いを伝えたい

瞳はあなたに釘付けなのです

「あなたを愛しています」

# 君へ。

http://p.booklog.jp/book/75730

著者：夕凪
著者ホームページ『PrivateGarden』
http://yunagi.holy.jp/

表紙写真：水没少女様

感想はこちらのコメントへ
http://p.booklog.jp/book/75730

ブクログ本棚へ入れる
http://booklog.jp/item/3/75730

電子書籍プラットフォーム：ブクログのパブー（http://p.booklog.jp/）
運営会社：株式会社ブクログ